

震災10年

1月17日で阪神・淡路大震災から10年の節目を迎える。工場や店舗を失った企業は自力で、あるいは公的支援を得ながら再建を果たしていった。しかし阪神・淡路産業復興推進機構(HERO)の実態調査では、03年6月段階で震災の影響が残っているとする企業が依然50%近くを占めている。もちろん中小企業と地

場産業はその影響が最も大きい。それでも被災地では復興に向けた多様な模索がなされた。民間非営利団体(NPO)との協働、やコミュニティビジネスの台頭、企業間のネットワークやクラスター(産業集積)構築などは、次世代の中小企業の姿を示唆するものだ。

(神戸支局長・嶋崎直、三島浩樹)

中小企業 試練越えて

成長の引き金

兵庫中小企業家同友会(田中信吾代表理事)のメンバー約30社は、震災の影響と産業空洞化に歯止めをかけようと「製造部会」を立ち上げた。これが発展し、99年に、全国的にも注目されている共同受注・開発グループ「アドック神戸」が誕生した。会長会社である洗淨機メーカー、森合精機(兵庫県明石市)は震災前と比較して売り上げが50%増えた。また金属部品メーカーのツインテック

NPO化

NPO法人ワット神戸(神戸市中央区)は、異業種の中小企業が参画す

(同)も、アドック神戸を通じて受注した米国向け医薬品自動分割包装机が軌道に乗り、売り上げが2億円近くに達している。一連の経過をよく知る栄敏充事務局長は「不況期にリスクを負いながら業態転換に取り組んだ企業が躍進している」と、アドック神戸が会員企業を成長させる引き金であったことを強調する。

きびかな強め第二の創業



ワット神戸が施工した太陽光発電設備と風力発電。神戸市のシンボルマークをライトアップする(神戸市中央区)

新たな展開

自然エネルギー普及啓発グループ。01年の3月に任意グループとして発足し03年4月にはNPO資格を取得した。これまでに神戸市立工業高等専門学校(神戸市西区)、須磨寺(同須磨区)、丸優(兵庫県三田市)など約10件の太陽光発電設備の施工実績がある。「NPO化したことで活動のすそ野が広がった」と、手こたえを感じているように、全国的にも注目されている共同受注・開発グループ「アドック神戸」が誕生した。会長会社である洗淨機メーカー、森合精機(兵庫県明石市)は震災前と比較して売り上げが50%増えた。また金属部品メーカーのツインテック

全壊した本社ビルは03年4月に再建。それと同時に社名から「シューズ」を外した。スクールシューズだけでなく、中高齢者用や義肢用シューズなどが軌道に乗り、今後の新たな展開が見込めるためだ。「新規事業に取り組める風土や体質をつくる」ところから始めた(有吉英二社長)といい、一歩一歩ステップアップしている。長い歴史を持ち社内外の仕組みが完成した市場産業にとって「第二創業」は至難の業。震災の試練を乗り越えて同社はそのハードルをクリアした。

25面に関連記事、最終面に「深層断面」